

【研究目的（仮説等）】

本研究報告は私の前任校静岡市立田町小学校での3年間の研究をまとめたものである。田町小に赴任した際に、田町には人・もの・ことなどの資源が豊富にあり、活用したいと考えていた。令和4年度に田町小では「社会に開かれた教育課程」を実現するべく、その中核を担う、生活科・総合的な学習の時間の学びを充実させるため、生活・総合部が新設され、私が部長に任命された。小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編を紐解いたところ、①資質・能力 ②探究課題 ③カリキュラム・マネジメント ④学校体制 ⑤地域の財の活用 が重要であると考え、以下の仮説を立て、検証することとした。

仮説 「育成することを目指す資質・能力を明確化し、その実現に向け、生活・総合を中心としたカリキュラム・マネジメントに取り組み、主体的に学ぶことのできる探究課題を子供と設定した上で、地域の財を活用を設定しながらの探究学習を学校体制で進めていけば、学校教育目標が達成され、『社会に開かれた教育課程』を実現することができるのではないか。

【研究方法】

- (1) 単元配列表を活用した、資質・能力ベースのカリキュラム・デザイン
- (2) 学校体制で取り組む、安倍川プライド育成・コミュニティスクールの柱「TAMACHI エリアミーティング」
- (3) 資質・能力の育成にふさわしい探究課題の設定と実践（担任した3、6年）
 - ①R5 3年「田町・田町小の自まを幼稚園の友達に伝えよう」
 - ②R6 6年「田町の様々な年代の人々の絆を深めるために～田町きずな祭りをひらこう～」
- (4) 地域の財（人・もの・こと）の積極的活用
- (5) キャリアパスポートを活用し、学んだことの積み上げを可視化することで子供に成長を実感させる。

【研究経過】

- (1) 単元配列表を活用した、資質・能力ベースのカリキュラム・デザイン

カリキュラム・マネジメントの3つの側面は、①カリキュラム・デザイン ②内外の資源の活用 ③PDCA サイクルであるが、それを田町小では、①単元配列表を活用した、資質・能力ベースのカリキュラム・デザイン、②地域の財（人・もの・こと）の積極的活用 ③キャリアパスポートを活用し、学んだことの積み上げを可視化することで子供に成長を実感させる（PDCA サイクル）の3つとし、実践を重ねた。

まずは単元配列表を活用した、資質・能力ベースのカリキュラム・デザインであるが、もとより田町小、駒形小、安倍川中からなる小中一貫教育安倍川中グループでは、学校教育目標「未来（あす）をきりひらく子」の達成のための目指す子ども像を安倍川プライドと位置づけている。

安倍川プライド

- ①前向きに取り組む子＝自己調整力 ②仲間と共にがんばる子＝人間関係調整力 ③安倍川地区に誇りをもつ子＝愛郷心

この安倍川プライドを具現化するために、以下の4つの資質・能力の育成を掲げ、実践することとした。（資料1）

- A 調べたことを分かりやすくまとめる力（知識・技能）
- B 受信と発信をつなげたコミュニケーション力（思考力・判断力・表現力等）
- C 体験や既習事項をもとに自ら課題を設定し、計画を立て、問題解決をする力（学びに向かう力・人間性等）
- D 情報活用能力 ①情報活用の実践力 ②情報の科学的な理解（基礎的スキル） ③情報に参画する態度（情報モラル）

田町小では、上記4つの資質・能力を意図的・計画的に育むため、年間の計画を立てる際に単元配列表（資料2）を作成し、実践と結び付けている。また、この取り組みをしていることを子どもたちや保護者にも共有している。そして、年間を通してすべての教科等の学びをつなげて、4つの資質・能力の育成を目指した。その中でBの受信と発信をつなげたコミュニケーション力の育成は、日々の授業実践とエリアミーティング（後に説明）を結び付け、最も重視している。例えば、資料3のように6年生であれば国語「やまなし」を思考力・判断力・表現力を身に付ける「中心単元」と設定し、本単元の話し合い等で身に付けた受信と発信をつなげたコミュニケーション力を総合「エリアミーティング」で活用・発揮し、より高めることを意識し、実践した。（この総合

「エリアミーティング」を活用・発揮単位と設定した。) また、特別活動でも同様に、学級会や委員会活動、代表委員会などの話し合いが充実したものになるように、ファシリテーターを務めた経験がエリアミーティングで生かされた。このように、学習内容でつなげるのではなく、資質・能力でつなぐことがカリキュラム・デザインをする上で非常に重要である。実際、R6実施の6年生による6月エリアミーティング後のキャリアパスポートによるふりかえりでは、「1・2年生でも分かるようにスライドを工夫できた。」「考えづくりの時間に下級生にアドバイスしたら1・2年生がたくさん発表してくれてうれしかった。」10月エリアミーティングのふりかえりでは「参加してくれる人がわかりやすいように、Yチャートを使って黒板に参加者の考えを整理したら、たくさんの発言をしてくれた。」という前向きかつ、普段の取り組みの成果が活用・発揮された姿が浮き彫りになった。(資料4)

また、この単元配列表は全学年が作成し、実践に結び付けている。4月、7月、3月と検討研修を行っている。この際、検討の際のペア学年の組み合わせを毎回変え、様々な学年の配列表にふれることで新しい考えが生まれたり、1～6年の系統性を考えたりすることにつながっている。また、この検討研修の際だけでなく、子どもの実態や学びの様子等を踏まえ、年間を通して細かな変更を加えることを推奨し、より教育効果が高まるようにしている。(資料5) こうした取り組みの結果、教員の各教科の学びや付けた力を生活・総合につなげようという意識が高まり、教育効果を高めるための単元配列の交換などが進むようになった。

(2) 学校体制で取り組む、安倍川プライド育成・コミュニティスクールの柱「TAMACHI エリアミーティング」

生活・総合部長に就任した当初、(1)の資質・能力ベースのカリキュラム・デザインと、学校体制で取り組む学習活動を作ることが最も重要であると考えた。TAMACHI エリアミーティングのエリアとは地域、ミーティングとは会議、話し合いを指す。つまり、「地域(田町)の課題についてみんなで話し合い、よりよい田町を目指そう」という理念のもと始めた。これは、安倍川プライドの最高位、愛郷心の育成にまさに結びつくものである。このエリアミーティングは、R6から始まるコミュニティスクールを見据え、2年前のR4よりスタートした活動である。R410月実施の第1回エリアミーティングでは、6年生は頑張ってファシリテーターを務めたが、あまり話し合いは深まらなかった。そこで、子どもや職員、地域住民に浸透させるためにR5から年3回実施とし、子どもたちが経験を重ねることで話し合いの深まりを目指した。また、(資料6)4、5年生にもファシリテーターを1回ずつ担わせることで、学年が上がるにつれてファシリテート力を伸ばすことができている。6年生はファシリテーターとしての経験を生かし、4、5年生担当の回の際に進行をアシストする役割も担うことで相互に力を高め、キャリア形成にもつながっている。形態は全校児童がテーマによって10ほどの分科会に分かれ、地域の課題について話し合いをしている。R6実践は

第1回	6月21日(金)	ファシリテーター：6年	探究課題「田町のみんなが安心・安全に暮らすために(交通安全)」
第2回	10月22日(火)	ファシリテーター：6年	探究課題「田町の人々の絆を深められるように(地域貢献)」
第3回	11月29日(金)	ファシリテーター：5年	探究課題「田町の環境をよりよくするために(環境)」
第4回	1月17日(金)	ファシリテーター：4年	探究課題「田町の防災対策をよりよくするために(防災)」

である。究極的なねらいは、この学習を通して愛郷心を高めた子供たちが将来、地域貢献ができる人材に育つことである。実際、R4に担任し、この学習を初めて行い、ファシリテーターを務めた6年生は地域に関する興味・関心を高め、卒業式後の4月当初に行われた浅間神社廿日会祭当番練に多くの子どもが参加した。そして運動会での素晴らしいパフォーマンスを評価して頂いた地域の方から依頼を受けたソーラン節の演技で、廿日会祭を盛り上げ、地域の方々に多くの笑顔をもたらし、喜んでもらい、地域に活気をもたらす見事な地域貢献をすることができた。(資料7)

(3) 資質・能力の育成にふさわしい探究課題の設定と実践

①3年「田町・田町小の自まを幼稚園の友達に伝えよう」

R5に担任した3年生の実践を紹介する。資料8にあるように3年生は総合のスタートであることから、まず自分たちが住む「田町」についてのイメージをウェビングにて明らかにし、たくさんのよいところがあることに気がついた。そして、幼稚園、小学校、中学校、高校が隣接する地域であることに触れ、0歳から18歳までの中で自分たち3年生は幼稚園、小学校低学年グループでは一番上のお兄さん、お姉さんであることから、来年小学生になる幼稚園の友達に何かできないかという声上がり、「田町・田町小の自まを幼稚園の友達に伝えよう」の単元がスタートした。

自まを伝えるためにはまずは自分たちが田町・田町小のよさを知り、そのよさが本当に自まであるかを明らかにする必要がある。情報収集方法の一例として、子供たちが一番はじめに調べたいといった、校内にある「ビオトープ」を示す。資料9のように、①まずは本やインターネットでビオトープについて調べ、②少し分かったところで現地調査、③近くの看板に気づいたところ

で、「そういえば、よくピオトープの手入れをしてくれている人がいる。その人に話を聞きたい。」とある子が言い出し、ピオトープ創設時の校長である、竹内元校長先生に出前講座を設定した。このように、教師が主導し、あらかじめ出前講座を設定するのではなく、「子供の活動・思考を中心に」単元を展開した。こうした流れの積み重ねにより、子供の主体的な学びが引き出され、半年間に渡る学習の中で、子供たちがモチベーションを高め続けることにつながった。資料10のような出前講座本番後のまとめの授業では、わかったことを整理した後、「ピオトープは自まんと言えるのか」の問いに対し、様々な視点から考え、「自まんだ」と結論づけた。さらに「ピオトープのよさを幼稚園の友達に伝えるには」の問いに対し、「紙芝居、スライド、ポスター」などの手段に加え、「ようちえんの子だからひらがなで作る、写真やイラストを多くする」など相手を意識した表現力が伸びつつあることが伺えた。さらに「幼稚園に見学に行きたい。交流もして『ようこそ会』の招待状を渡したい。」などの発言も出てきて、すでに半年後のゴールを見据え、学びの計画を自分たちで創ろうとしている様子が見られた。

資料11は4ヶ月楽しみにしていた幼稚園見学の様子である。園児とかかわる中で、幼稚園の子たちを喜ばせたいという気持ちが存分に見て取れた。また、交流を通し、ようこそ会本番で園児にどのような配慮が必要なのかを実感することができた。幼稚園の子の実態が分かり、招待状も渡せ、会本番に向け、見識やモチベーションが高まる学習となった。

資料12は隣接する静岡商業高校3年生を招いてのチーム別活動の様子である。静岡商業高校は地域を担うビジネスリーダーの育成をスクールミッションに掲げていることから、地域貢献を目指す本単元のねらいにまさに合致すると考え、協力を依頼した。また、商業高校の生徒にとっても小学生に関わることは顧客意識を高めることのできる、重要な学びの機会になると考えた。商業高校の生徒には準備、本番を通し計5回来て頂いた。その5回を通した3年生の成長が高校生にとっても自らの取り組みの成果であると感じてきたようで、双方にとって、非常に価値のある、学びとなった。

資料13は静岡市小中一貫教育研究発表会公開授業の様子である。全4チームがリハーサルと内容改善の話し合いをした。参観者からは「高校生と小学生が同じ目線で真剣に話し合いに参加している姿が素晴らしい」「高校生の助言を受け、子供たちの発表が目に見えて上達した。」「小学生と高校生が自然で楽しそうにかかわり、とても良い雰囲気の学びであった」などの言葉を頂いた。

資料14は本番1週間前のピオトープチームのつぶやきである。この日1回目のリハーサルは5分40秒であり、幼稚園の子たちの集中力がもつのは3～4分と考えていた子どもたちは短くする方法を考え、結局、紙芝居をやめる決断をした。3年生の子どもたちが心をこめて一生懸命作った紙芝居を使わない決断ができたのは素晴らしいと感じた。自分たちがやりたいことよりも幼稚園の子たちの集中力を優先できたからであり、相手を意識した、人間関係調整力の大きな高まりを感じた。

資料15は2日に渡って行われ、計4園、130人ほどの年長児が参加してくれた「ようこそ、田町小の会」本番の様子である。自分たちが「自まん」と選び設定した「ピオトープ」「学校の施設」「安倍川花火」「安倍川公園・親水公園」の4チームで発表した。静商生徒、本校6年生、地域の方も応援に駆けつけてくださった。本番では半年間で高めてきた「相手を意識した表現力」を存分に発揮し、とにかく分かりやすく伝えようと懸命に発表する姿、園児に寄り添い丁寧に質問に答える姿、優しい眼差しで校内を案内する姿が見られた。園時代に担任していた園の先生方からは「3年経ってこんなに立派に成長してくれて嬉しい」という温かい言葉を頂いた。そして、幼少それぞれの教員にとっても学びの機会となり、幼少連携も進んだ。年長児は春に控える入学がより楽しみとなったようであった。3年生の子どもたちなりの「地域貢献」ができ、①前向きに取り組む子＝自己調整力 ②仲間と共にがんばる子＝人間関係調整力 ③安倍川地区に誇りをもつ子＝愛郷心 という3つの安倍川プライドが十分に育成された。

②6年「田町の様々な年代の人々の絆を深めるために～田町きずな祭りをひらこう～」

R6に担任した6年生の実践を紹介する。4月に時間をかけて田町を分析したところ、子どもたちは①交通安全 ②少子高齢化が課題であるという結論を導いた。そこで6月の第1回エリアミーティングは「田町 みんなが安心・安全に暮らすために（交通安全）」をテーマに実施した。その際、地域の人の願いを聞いたところ、最も多いものは「高齢者と若い人のつながりをもっと増やしてほしい」というものだった。（資料16）これは6年生の考える田町の課題の「少子高齢化」と強く結びつくものであった。そこから「わたしたちができることは何だろう」の問いが生まれ、何時間もかけて話し合いをした。その結果「イベントを開き、高齢者と自分たち 自分たちと幼稚園の子たち 幼稚園の子たちと高齢者のつながりを深めるというアイディアで意見がまとまった。そこで単元名を「田町の様々な年代の人々の絆を深めるために～田町きずな祭りをひらこう～」とし、開催に向けた探究学習を進めることとした。この直後安倍川花火大会会長と、自治会長を兼務する方にお会いし、協力をお願いしたところ、大変喜んでくださった上で「地域を盛り上げるためには祭りが一番」とおっしゃっていた。この時、私は「祭り、イベントを通して地域を盛り上げる」

という田町のアイデンティティが世代を超えて受け継がれていることに感動すると同時に、この方向性が間違っていないと確信することができた。

資料 17 にあるようにコーナー別活動と 2 回のエリアミーティング、キャリア講座等を絡め合わせ、学習を進めた。本番は地域住民、幼稚園年長児、保護者など約 100 名のお客さんが来てくださった。お客様が楽しめるような接客や臨機応変なルール変更、高齢者と幼稚園児をつなぐ対応などのあらわれがたくさん見られた。参加者の笑顔が印象的で「来年も是非続けてほしい」「田町小に入学するのが楽しみになったよ。」などのお言葉を頂けた。(資料 18 19)

(4) 地域の財(人・もの・こと)の積極的活用

持続可能かつ学校体制で地域の財の活用を進めるため資料 20 のような内外資源活用リストを作成し、毎年更新している。先ほどの 3 年生実践の地域の財は資料 21、6 年生実践の財は資料 22 の通りである。

(5) キャリアパスポートを活用し、学んだことの積み上げを可視化することで子供に成長を実感させる。

PDCA サイクルを回すために、キャリアパスポートを活用した。安倍川中グループ統一キャリアパスポートでは ①自己理解 ②行事 ③人との出会い の 3 種類がある。「授業の振り返り(学びの自己調整)と同じ発想で取り組み、子どもも教員も学び・経験・つながりを可視化できるようにしましょう」と教員に呼びかけ自らも実践を重ねた。3 年生実践では資料 23 のようにビオトープの元校長先生の講座の後には「ビオトープに生き物を引きずり出すのではなく自然に来てもらう。という言葉が素敵だと思った。」静岡商業高校生徒には「私も高校生になったら静岡の先輩のように小学生の役に立ちたいと思った。」6 年生実践ではきずな祭りに「田町の人々は本当に優しく温かい人が多い。これからも積極的に地域の行事に参加し、貢献したい。」「中学生でもエリアミーティングに参加したい。自分がおじいちゃんになるまできずな祭りは続いてほしいし、招待してもらいたい。」「将来は田町に会社を起こし、町おこしをしたい」などのあらわれが見られ、安倍川プライドに掲げる①自己調整力 ②人間関係調整力 ③愛郷心 が十分に高まっていることが分かった。

【成果】

- ①R6 学校評価「田町に生まれてよかったと思う」の問いに対し、95%の子ども、94%の保護者が「そう思う」と回答した。安倍川プライド③「愛郷心」が十分に高まったと言える。
- ②単元配列表検討研修、エリアミーティングを 3 年間学校体制で積み重ねたことにより、職員の資質・能力ベースのカリキュラム・デザインの意識や実践力が格段に伸びた。各教科、総合等の似ている学習内容をつなぐ、コンテンツベースの取り組み以上に、「国語「大造じいさん」の話し合い活動で身に付けた、受信と発信をつなげたコミュニケーション力を代表委員会やエリアミーティングで活用・発揮させたい」「3 年生のときのように、田町小の会の際に身に付けた、人間関係調整力や相手を意識した表現力を 4 年生の総合にも生かしたい」などの、資質・能力ベースの取り組みが職員室内でも自然と話題に上がるほど、浸透した。
- ③エリアミーティングが自治会の方、保護者、静岡商業高校生徒などにも浸透した。その結果、資料 24 のように地域の方や静岡商業高校生徒が反応してくださり、今後も続けてほしいとの声まで頂いた。R6 にコミュニティスクールとしてよいスタートを切ることができた。これは、子どもたちに、①前向きに取り組む子＝自己調整力 ②仲間と共にがんばる子＝人間関係調整力 ③安倍川地区に誇りをもつ子＝愛郷心 の 3 つの安倍川プライドで掲げる力がついたからこそであり、学校教育目標「未来(あす)をきりひらく子」が達成され、「社会に開かれた教育課程」も実現した。

【課題】

- ①「昨年と同じ探究課題でやろう」ではなく、子どもの実態、興味関心、地域や社会の変化に応じ、資質・能力をつけるためにふさわしい探究課題を子どもと教師が毎年考える必要性をこの 3 年間の実践で感じた。それができれば、子どもの探究が充実することが分かった。そのために教師が人材リストの新たな開拓を含め、地域や社会、国などを常に広い視野で見て、子供の発想を生かす単元構想の力を高め続ける必要があることを強く感じた。
- ②総合を中心とした資質・能力ベースの取り組みをするには、教育課程全体を広く見通した上で実践をしていく必要がある。今年度は異動し教務主任となったので、昨年度までの経験を生かし、現在校の子どもたちの実態を踏まえ、学校教育目標を実現できるようなカリキュラム・マネジメントを学校体制で進めていきたい。



この4つの資質・能力は、田町小の子どもの実態から、重点的に育成したいものを設定した。そして、単元配列表を活用したカリキュラム・デザインをして、意図的・計画的に育成した。

年複数回にわたる「単元配列表」への追記・修正

生活科、総合を中心とし、教科等横断的に資質・能力を育成する

教師の意図

【6年】カリキュラム・マネジメントのポイント

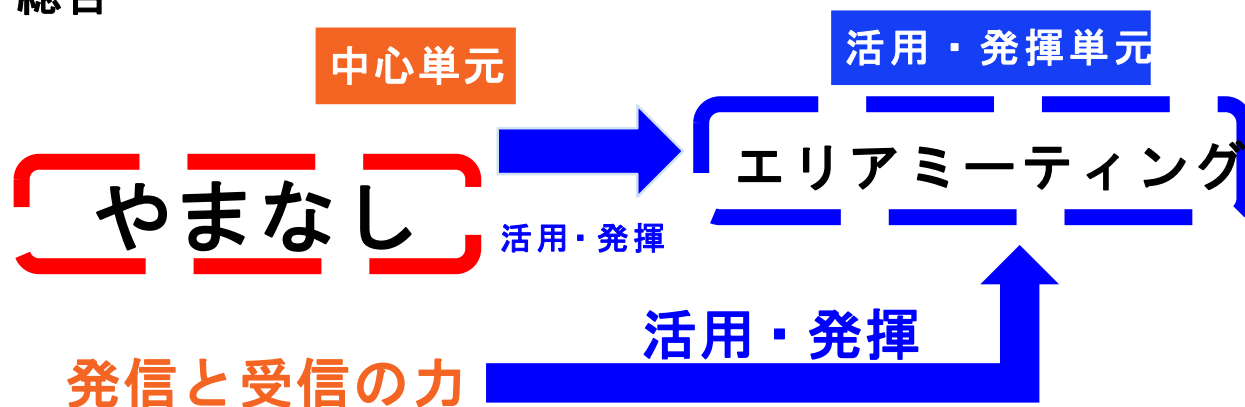
総合：「田町の様々な人々の絆を深めるために」が軸
国語：みんなで楽しく過ごすために と絡める

道徳：最後のおくり物（価値：親切・思いやり）を「田町の様々な人々の絆を深めるために」の活動時期に合わせて実施

年複数回にわたる「単元配列表」への追記・修正

年間の中で育成の重点となる単元 ▶ **中心単元**

その能力を活用・発揮する生活・
総合 ▶ **活用・発揮単元**



資料4 エリアミーティング写真

【第1回】 6月21日（金）ファシリテーター：6年

探究課題「田町 みんなが安心・安全に暮らすために（交通安全）」会場内の様子



低学年児童にかかわり、考えづくりのアドバイスをする6年生



小学生とかかわり、話し合う静岡商業高校生徒



【第2回】10月22日（火）ファシリテーター：6年

探究課題「田町の人々の絆を深められるように（地域貢献）」

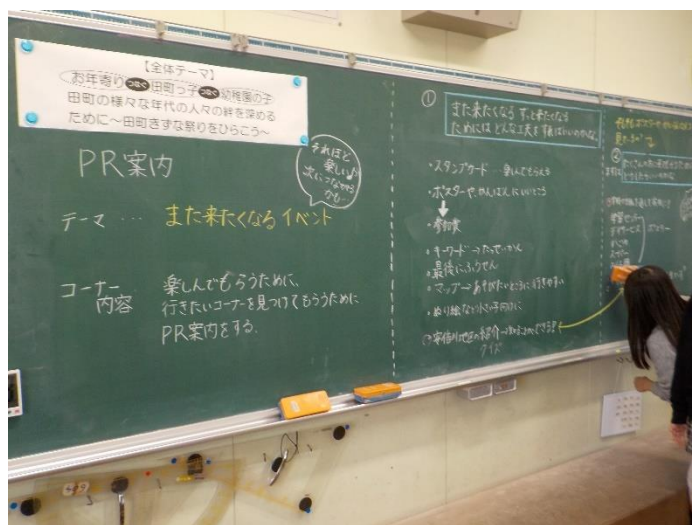
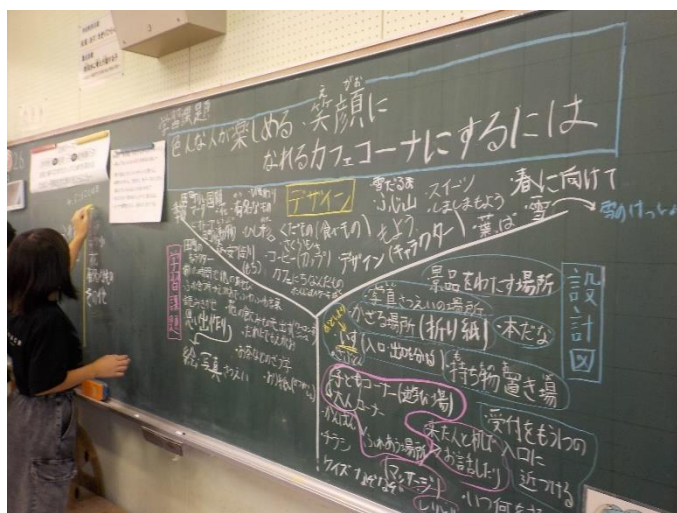
～田町きずな祭りの第一次企画書を説明し、改善策を話し合おう～

参加して下さった地域の方々





深い話し合いの手助けとなった、構造化された板書



資料5 単元配列表検討研修の様子

年複数回にわたる「単元配列表」への追記・修正



校内夏季研修会における単元配列表の追記・修正



エリア・・・area（地域）
ミーティング・meeting（会議）



地域（田町）の課題についてみんなで話し
合い、よりよい田町を目指そう



R6コミュニティスクールに向けてもプラス

「愛郷心」～田町・安倍川に生まれ育って良かった～
あべかわ学で目指す姿

資料7 廿日会祭の様子



課題の設定

はじめての総合「総合って何？」
「田町と言えば？」



田町には「良いところ＝自慢」が多くある

+

私達は、幼稚園、小学校低学年グループ
では一番上のお兄さんお姉さん

1歳	2歳	3歳	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

来年、小学生になる幼稚園の友達のために、何かできないかな？

単元の課題決定

田町・田町小の自まを
幼稚園の友達に伝えよう

情報の収集 ビオトープ(5、6月)

子どものモチベーション

【本やインターネット】ビオトープを調べるよ

【現地調査】ビオトープに何がすんでる？

「虫？鳥？水生植物？多くの生き物がいた！」

【現地再調査】看板がある？(2005年設置)

「ビオトープのお世話をしている方がいた！」

「設置当時の竹内先生？」

【出前講座】話を聞きたい！

「地域の人々の協力、当時の思いなどまで分かった！やっぱり田町小と地域のじまんだ！」

資料 10 ビオトープ出前講座後のまとめの授業



資料 11 幼稚園見学の様子



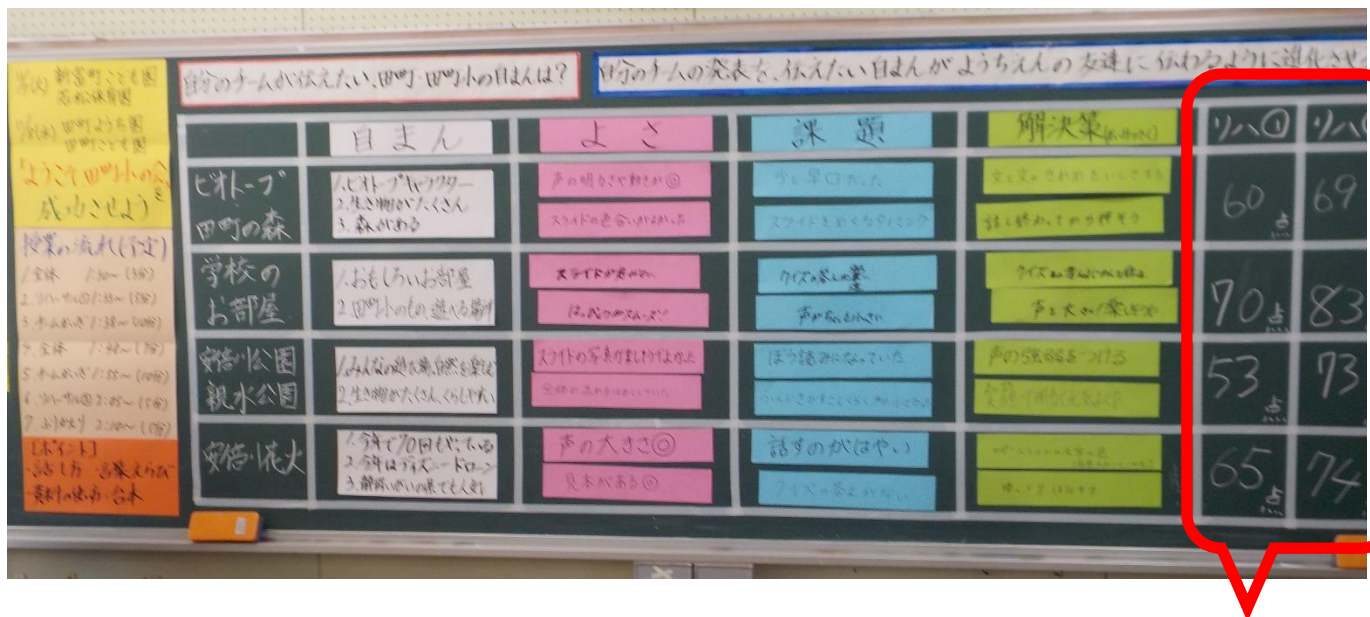
資料 12 静岡商業高校とのチーム別活動の様子



資料 13 小中一貫研究発表会公開授業（静岡商業高校生徒を招いてのリハーサル及び改善）



当日の板書



静商生徒にリハーサルの点数を採点してもらった。1回目のリハーサル後、静商生徒のアドバイスを
受け、発表内容の改善をしたり、練習を重ねた成果が出たりして、どのグループも1回目（左）より
2回目（右）の方が点数が上がっている。当日参観した他校の教員の事後アンケートにも「高校生の
助言を受け、子供たちの発表が目に見えて上達した。」という記述が見られた。

資料 14 ようこそ田町小の会 本番1週間前のビオトープチームの話合いの様子

まとめ・表現（ビオトープチーム）

【ポイント】園の子にとってわかる発表に

- ① 1回目のリハーサルは5分40秒
- ② 園児には少し長い、3～4分にしたい
- ③ 練習すれば早くなる？
- ④ 3分にはならない
- ⑤ せっかく作ったが紙しばいやめる？十分伝わるのでは？
- ⑥ そうしよう。（その結果3分30秒に）

自分よりも 園児のために ⇒ 人間関係調整力の高まり



【第1回エリアミーティングで
聞いた地域の人の願い】

- ・高齢者と若い人のつながりを
もっと増やしてほしい

【私達が考える、田町の課題】
・少子高齢化



わたしたち（6年生）ができることはなんだろう？



イベントをひらき、
高齢の方とわたしたち、わたしたちと幼稚園の子たち、
幼稚園の子たちと高齢の方のつながり（きずな）を深めよう



単元名：田町の様々な年代の人々の絆を深めるために
～田町きずな祭りをひらこう～

【単元展開イメージ】

本時：10月22日（火）第2回エリアミーティング

第一次企画書を説明し、改善策を話し合う・・・50%



修学旅行やコーナー別活動等を通してブラッシュアップ



11月30日（土）家族地域参観会

ミニエリアミーティングを開き、お家の人に意見をもらう。

実演、展示等も可。・・・・・・70%



コーナー別活動でブラッシュアップ



1月23日（木）田町きずな祭りリハーサル・・・85%

田町小1、2年生に参加してもらい、リハーサル。反省点を本番に生かす



1月31日（金）田町きずな祭り・・・100%

資料 18 田町きずな祭り 全 10 チーム

コーナー名	テーマ	コーナーの内容
1) こま・めんこ・おはじき	高齢者に昔の遊びでワクワク楽しく幼稚園の子たちと遊んでもらう。	こま・めんこ・おはじきを高齢者から6年生や幼稚園に教えてもらいながらみんなで楽しむ。
2) 田町すごろく	誰でも楽しめる 現在、昔の田町すごろく	田町の魅力や記念日を入れて作成したすごろくで、田町一周旅行をしながら遊ぶ。
3) ボードゲーム	ボードゲームで TAMATI Tanosiku(楽しく) Minnade (みんなで) Asonde (遊んで) Tyohappyna (超ハッピーな) Itiniti (一日)	オセロ、人生ゲーム、ドンジャラ、カタンなど 今と昔のボードゲームを用意し、皆さんで遊んでもらい、楽しんでもらいたい。
4) 手作りゲーム	全世代に響く 来てよかったと思える祭り	全世代が楽しめる、輪投げ、ヨーヨー釣り、宝探し、射的 の4種の遊びでみんなで仲良く遊ぶ。
5) ポッチャ	高齢者も小さい子も 笑顔あふれる 最高のポッチャ村にする	高齢者ルールと小学生以下ルールを作り、様々な世代が一緒に楽しくポッチャで遊ぶ。ボールは公式ボールでも玉入れの玉でもどちらでもよい。
6) モルック	高齢者や子どもたちと交流し モルックを通して田町をより好きになってもらう	本当のモルックセットを使うけれど、小さい子は前から投げるなど、どんな人でも気軽に楽しく遊べるモルックコーナー。
7) ペーパークラフト	広い世代にペーパークラフトの楽しさを知ってもらうペーパークラフトコーナー	アルミホイルアート、釣り、花のペーパークラフトなどを作り、おみやげで持っかえってもらう。
8) ウッドクラフト	手作りウッドクラフトで遊んでもらい、小さい子たちには「かっこいい」高齢者の方々には「ありがとう」と思ってもらえるようなコーナー	手作りの射的、パチンコゲームや、田町の森の枝、葉などを使ったオブジェ作成コーナーで小さい子から高齢者に、見て、作って、遊んで楽しんでもらう。
9) カフェ	高齢者にゆっくりほっこりしてもらうカフェコーナー	自分たちでデザインし、和菓子屋さんで作ってもらった練切と、心をこめて淹れたお茶で高齢者をおもてなし、ゆっくりしてもらう。
10) PR・案内	多くの人にイベントに参加してもらい、また来たいと思えるようなイベントにする	<ul style="list-style-type: none"> ・きずな祭りPR動画の作成 ・1月上旬どんと焼きに参加しPRする。 ・会場図、コーナーの紹介、スタンプラリーを載せたカードを作成し、お渡しする。 ・祭り開催中、連絡を取り合い、お客さんが少ないコーナーに誘導する。

資料19 きずな祭り本番写真

1) から10)は資料18の1から10)と対応している

1) こま・めんこ・おはじき



2) 田町すごろく



3) ボードゲーム



4) 手作りゲーム



5) ボッチャ



6) モルック



7) ペーパークラフト



8) ウッドクラフト



9) カフェ



カフェチームデザインの和菓子に感動されている



10) PR・案内



はじめの会



お見送り



R 6 田町小内外資源活用リスト 校内外における分類バージョン

<p>【学校で】</p> <p>夢を叶える生き方授業「選手」「アナ」</p> <p>駿府ウェイブ出前授業「さん、さん」</p> <p>キャリア講座（IAI、静岡おでんおがわ、和菓子屋白木屋）</p> <p>放課後児童クラブ（きずな祭り物品借用）</p>	6年	<p>【校外で】</p> <p>職人さんを巡る旅「雛人形左京さん」「和家具さん」</p> <p>安倍川中学校一日体験 狂言鑑賞（能楽堂）</p> <p>友禅ハンカチ絵付け体験（東京下町職人さん）</p> <p>キャリア講座（ホテルメトロポリタン様）</p> <p>静岡市歴史博物館 登呂遺跡 静岡市議会</p>
<p>【学校で】</p> <p>国土交通省河川事務所による講話</p> <p>静岡ガス出前講座（エネルギー）</p> <p>静岡第一テレビアナウンサーさん</p> <p>新聞づくり「静岡新聞さん」</p> <p>静岡市役所 & BANDAI ゴミ拾い→出張授業</p>	5年	<p>【校外で】</p> <p>静岡新聞社 静岡県地震防災センター</p> <p>安倍川花火大会実行委員長さん</p> <p>河川事務所 流木まつり（有志参加）</p> <p>スズキ自動車工場見学</p>
<p>【学校で】</p> <p>上下水道局出前講座 富士宮やきそば学会の方</p> <p>福祉講座 UD（区役所）</p> <p>視覚障害の方（社会福祉協議会管轄）</p>	4年	<p>【校外で】</p> <p>ふれあいサロン（本校体育館）</p> <p>地域の高齢者サロン</p> <p>デイケア・デイサービスセンター</p>
<p>【学校で】</p> <p>安倍川花火の話「さん、さん」</p> <p>昔の暮らし「さん」 ビオトープの話「さん」</p> <p>安倍川もち（かごやさん）</p> <p>市役所道路計画課による安倍川橋の話</p>	3年	<p>【校外で】</p> <p>しずてつストア おやいづ製茶 清水港</p> <p>えびす市場 南田町消防署 県警（web 見学）</p> <p>神明宮神主 浄元寺住職</p>
<p>【学校で】</p> <p>生活科探検（保護者ボランティア）</p> <p>野菜の植え方講座（宇佐美農園さん）</p> <p>・苗を届けてもらい、植え方の説明をして頂く。</p> <p>日本平動物園出張動物園ガイド</p>	2年	<p>【校外で】</p> <p>学区探検・・・地域の公園、店、施設など</p> <p>（左京 ローソン、ラベック静岡、うらやま文具 田子の月、淡路島バーガー、おくにラーメン、ナルオカスポーツ、静鉄ストア等）</p> <p>ありがとうの手紙（探検・ボランティアなど）：生活畑の先生・・・地域の野菜づくりが得意な方</p>
<p>【学校で】</p> <p>昔のあそび（地域のお年寄り、児童の祖父、祖母等）</p>	1年	<p>【校外で】</p> <p>虫とり（親水公園）園との交流（スタートカリキュラム）</p> <p>親水公園に四季それぞれ行って植物や昆虫観察をする。</p>
<p>【学校で】</p> <p>プールボランティア（保護者）中国語ボランティア</p> <p>ミシンボランティア 約10名</p> <p>学校応援団「さん、さん」</p> <p>エリアミーティング（自治会関係者、静商生徒、田町幼稚園職員、保護者など） 静商読み聞かせ</p> <p>IAI 講座（全学年可能 オーダーメイドも可能）</p>	様々	<p>【その他】</p> <p>スタートカリキュラムの一つとして、入学後夏休みまでの間、ペアの6年生や2年生だけでなく、3、4、5年生とも交流する。</p>

資料 21 3 年「田町・田町小の自まを幼稚園の友達に伝えよう」主な財 活用リスト

地域の財	活用内容
竹内元校長先生	約 20 年前、田町小にビオトープが完成したときの校長先生。子供たちの求めに応じ、「ビオトープとは?」「どうやって作ったか?」「この後、どうなってほしいか」などの講座を行ってくださった。
安倍川花火大会実行委員長の方 学校評議員の方	田町が誇る行事「安倍川花火大会」が生まれた経緯、70 回も続けてくるまでの工夫や努力などを講座で丁寧に教えてくださった。
静岡商業高校生徒	「ようこそ田町小の会」に向けてのグループ別活動に 4 回参加し、共に取材活動をしたり、発表内容の改善をアドバイスしてくれたりした。11 月ようこそその会の本番にも来てくれ、3 年生を見守ってくださった。12 月には「高校生の生活」「商業高校とは」「静岡商業高校とは」など 4 つのグループでプレゼン発表をしてくれた。
近隣こども園 年長児 職員	田町幼稚園、田町こども園、新富町こども園、若松保育園と 4 つの園の園児約 130 人と職員が「ようこそ、田町小の会」に参加してくれた。3 年生の発表や学校案内を経て、翌春に控える入学への期待を高める機会となった。職員にとっては、自らの教え子の 3 年後の姿を見ることで自らの指導の参考にすることもでき、幼少連携が進む機会ともなった。

資料 22 6 年「田町の様々な年代の人々の絆を深めるために～田町きずな祭りをひらこう～」主な財活用リスト

財	活用内容
自治会、地域住民	自治会役員の方々が、エリアミーティングや田町きずな祭りに参加してくださる地域住民の方を募ってくださった。
I A I スタッフ	9 月にミニロボ講座を行っていただいた際にキャリア講座第 1 弾として、ロボット開発、普及などの「人を喜ばせたいという思いやそれに向けた工夫や努力」をたくさん話して頂き、きずな祭りにつなげた。また、手作りゲームグループのお願いに応じ第 1 次企画書検討の 10 月開催のエリアミーティング前にはアドバイスをくださった。
静岡おでん 「おがわさん」	9 月に講座を行って頂いた際におでんの話や串刺し体験をさせて頂いただけでなく、キャリア講座第 2 段として、職人としての「こだわり」や、まちおこし、おもてなしなどの「人を喜ばせたいという思いやそれに向けた工夫や努力」を話して頂き、それを実現した過去の接客、出来事のエピソードに子どもたちは感動していた。
修学旅行 ホテルスタッフ	キャリア講座第 3 段として普段心がけていることを話して頂いた。要点の「第一印象をよくする」「どうやったら相手が喜ぶか考える」「共感に努める」の 3 点は、きずな祭りの大きなヒントとなった。
和菓子屋「白木屋」 店主 大石さん	1 月に講座をお願いし、キャリア講座第 4 段として、職人さんとしての工夫や努力、お客さんに喜んでもらうために心がけていることなどのお話を伺い、田町きずな祭りの準備につなげた。また、カフェチームのデザインをもとに 4 種類の練切を作成してきてくださり、学年全員でどの練切を本番で提供するか、グループごと検討をした。決定したデザインの練切をきずな祭り当日作成してくださり、カフェにて地域の方に提供することができた。
児童クラブ	こま、めんこ、おはじき、ボードゲーム、モルック、ミニプールなどきずな祭り本番に使用する多くの道具を貸して頂いた。また、6 年生児童に低学年時代に指導して頂いてくださったこともあり、6 年生からの求めに応じ、企画書検討の 10 月開催エリアミーティングやきずな祭り本番に参加して頂いた。
田町小学校 1、2 年生 田町小学校 4 年生	きずな祭りの前の週にリハーサルに参加してくれた。このリハーサルを経て、改善できたことが、きずな祭りの成功につながった。1、2 年生にとっても 6 年生の地域貢献を実現したこの総合の取り組みに触れられたことはその後の学びの参考になったと思われる。また、4 年生は 6 年生がファシリテーターを務めた 10 月実施のエリアミーティングに感銘を受け、「是非当日自分たちも参加して学ばせてもらいたい。」との声が子供たちから上がり、田町きずな祭り当日に参加し、各コーナーのねらいに触れながら楽しみ、祭りを盛り上げていた。
田町幼稚園年長児	約 60 人と職員が 1 月の田町きずな祭り当日に参加してくれた。9 つのコーナーを思い思いに回り、楽しむだけでなく、6 年生や高齢者、地域住民の方とも触れ合うことができ、満面の笑みで満足してくれていた。職員にとっては自分たちが指導した子供たちが 6 年経って、立派な地域貢献ができるまでに成長したことに、驚き、感動、感嘆の声が多数あがっていた。

第26代校長

安倍川花火実行委員長

静岡商業高校 生徒



「ピオトープに生き物を引きずりだすのではなく、自然に来てもらう」という言葉が素敵だった。



戦後「きれいな静岡を取り戻したい」という願いから花火大会が始まり本当に取り戻せたのがすごい。



私も高校生になったら静商の先輩のように、小学生の役に立ちたいと思った。



キャリア（目標達成・人とのつながり・貢献内容）の記録

- ▶ 「積み上げを可視化」し、子ども自身の実感へ
- ▶ 教員にとっては「さらなる授業改善」へつなぐ

地域の課題等を「様々な立場の他者と語る」エリアミーティング

エリアミーティング参加者の感想



【静岡商業高校の皆さんの感想】
どの学年も自分の意見を物怖じせずに発表していた。私も含め、高校生でも簡単にできることではないと感じた。参加して楽しかったです。

【地域の皆様の感想】

エリアミーティングが浸透している。他の人の意見を聴いて自分の意見も述べるのが習慣づけられているように感じた。エリアミーティングは今後も続けてほしい。



地域参加者
高校生

子どもたちの姿から

確実な成長
継続的な実施を
願う声